



2020年を振り返る

世界的・歴史的な感染症となった、新型コロナウイルス感染症。
北海道179市町村応援大使事業は規模が縮小され、お祭りなどの季節行事は中止に。
コロナ禍で迎えた2020年は、行動を大幅に制限された『異例の1年』となりました。

暗い話題が報道される一方、村では新保育所が運用を開始。
また、災害対策関連の協定締結も進み、子育てや災害対策環境の整備が一步前進しました。

北海道179市町村 応援大使が村に

北海道日本ハムファイターズの『北海道179市町村応援大使』プロジェクトに当選した2020年、鶴岡慎也選手と堀瑞輝選手が占冠村の応援大使に決定しました。
北海道179市町村応援大使とは、毎年18市町村にそれぞれ複数の選手を応援大使に任命し、2013年から10年間実施する壮大なプロジェクトです。北海道日本ハムファイターズの選手が、道内の全市町村でまちづくり・まちお



こしに寄与しています。

広報7月号より連載企画としてファイターズ応援大使のご紹介や、クイズを掲載してまいりました。連載企画は今月の記事で最後となります。クイズでは少し難しい問題もありましたが、お楽しみいただけましたか。
8月には、ファイターズベ이스ボールアカデミーの立石尚行コーチと浅沼寿紀コーチが指導する野球教室が、占冠中学校で開催されました。元プロ野球選手による指導教室は、野球少年にとってかけがえのない思い出となりました。



◀ 広報9月号掲載のクロスワードパズル解答

1	バ		2		ツ			サ
	ン		サ		イ		ロ	ス
	ト	ス		イ	ン	3	ロ	ー
		タ	ツ	チ				カ
4		メ		5	ロ			ム
	イ	ン	タ	ー				イ
			イ		6			ワ
	ル	イ		7				ン

『はたたく』⇒ 羽撃く

『羽撃く』は、北海道日本ハムファイターズの2020年チームスローガンに掲げられた言葉です。
※カギの問題は広報9月号を御覧ください。

- | | |
|------------|-------------|
| <たてのカギ> | <よこのカギ> |
| 2 クサ野球 | 1 バックネット |
| 3 ロスター | 4 タメ |
| 4 タイトルホルダー | 5 ロスタイム |
| 6 ハイタッチ | 7 ウィニングショット |

◀ 広報11月号掲載の謎解きの解答

『おうえん』

- 1 オーバースロー
- 2 とうるい
- 3 エースおおたに
- 4 さんしん

北海道179市町村応援大使2020 **ファイターズ謎解き?!**

写真を参考に「応援大使」に関わる隠された4文字を見つけよう!



新しい占冠保育所の運用が開始しました
4月、新しい占冠保育所(中央地区)が運用を開始しました。10月に開催された『新占冠保育所の内覧会』には、延べ53名の村民が参加。占冠村産の木材が使用された建物や家具は、来場者から大変好評でした。
新占冠保育所は、ニーズの多様化に対応するため、未満児保育や給食提供にも対応できる施設です。新たに設置された交流コーナーは、子育て世代への相談・支援だけでなく、幅広い用途で活用される予定。村のすべての家庭が孤立することなく、地域と一体となる環境を築くことができます。
CO2の排出削減など、地球環境に配慮して導入された2台の薪ボイラー。使用する薪の原料は、主に村有林から調達されます。保育所で使用する薪はすべて占冠村木質バイオマス生産組合で製造されたものであり、エネルギーの地域循環による経済効果が期待されます。

新型コロナウイルス感染症による大きな影響 イベントの中止が相次ぎ、 給付金などの対策事業が 実施されました

2020年、社会・経済は新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けました。同感染症は、今もなお猛威を振るっています。

5月、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策として、特別定額給付金の申請受付を開始。各世帯1人あたり10万円が給付されました。給付対象768世帯のうち、752世帯が受給。申請率は97・9%となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響

を受けている地域経済や住民生活の支援を行うため、感染防止対策、事業継続対策、地域活性化・生活への影響緩和対策などを実施。しむかっぶ村民割クーポンなどが村民希望者に配布され、飲食店などで活用されました。

ふるさと祭りを始めとした各種お祭り、村民スポーツレクリエーション大会、占冠村総合文化祭など、毎年楽しみにされている方も多い数々のイベント。これらのイベント

は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐために中止となりました。地域活動の自粛を余儀なくされる日々。イベントが実施されないことに、『物足りなさ』を感じる方も少なくなかったのではないのでしょうか。

マスクを着用せずに外出し、人混みを気にせずにイベントに参加して楽しむことができた1年前。私たちの『日常』が早く戻ってくることを願うばかりです。

元気なアスペンの子どもたちを心待ちに。

◀昨年のアスペン交換留学事業『サヨナラパーティー』の様子。毎年10月に実施されるアスペン交換留学事業。平成3年8月に占冠村がアメリカ合衆国コロラド州アスペン市と姉妹都市提携をしてから令和3年で30年を迎えます。今年は、アスペン市長を表敬訪問し、今後における姉妹都市提携発展のための協議する予定でしたが、中止となりました。元気な彼らの来訪を、心待ちにしています。



今年中止となった、占冠村最大の祭り『ふるさと祭り』。来年は、近くで上がる大迫力の花火を楽しめると良いですね。



村民や村内企業の皆様から、手作りマスクや使い捨てマスクのご寄付もありました。困難な状況こそ助け合いが必要です。



『ごみの分別ハンドブック』 『防災のしおり』、『ハザードマップ』等を配布 災害協定を締結し、災害時の行動を迅速に

ごみ出しはルールとマナーを守って

ごみ分別辞典には、主な品物の分別区分が五十音順で掲載されています。ごみの分別の際、判断に困るものがある場合はこちらから確認することができます。すべてのごみの分別区分を網羅しているわけではありませんが、判断の参考としてご活用ください。

ごみの分別ハンドブックには、ゴミ出しのルールとマナー、ごみの分類、指定排出袋、ごみの出し方の注意点などが掲載されています。

ごみ回収ステーションは、共同で使用するものです。マナーを守り使用しましょう。

災害から身を守る適切な避難行動を

今年度配布したハザードマップには、避難所の場所や避難する方向、浸水や土砂災害の発生想定区域などを掲載しています。お住まいの区域を確認し、とるべき避難行動を考えましょう。

9月には、台風による風水害を想定した夜間訓練を実施しました。簡易トイレや段ボールベッドなど、実際に災害が発生したときに使用する災害備品を活用しましたが、これらの避難所の設備には限りがあります。一人ひとりが、日頃から非常用持ち出し用品を用意しておくことが大切です。

災害協定を締結 避難所として活用

8月、村と村社会福祉協議会との間で『占冠村災害ボランティアセンターの設置及び運営に関する協定』が締結されました。10月、村と国立日高青少年自然の家との間で『災害時における施設等の利用に関する協定』が締結されました。これらの協定の締結により、有事の際には村社会福祉協議会や国立日高青少年自然の家に対して協力要請を行うことができるようになりました。



▲今年度配布されたハザードマップ。お住まいの区域を確認し、避難行動を確認しましょう。

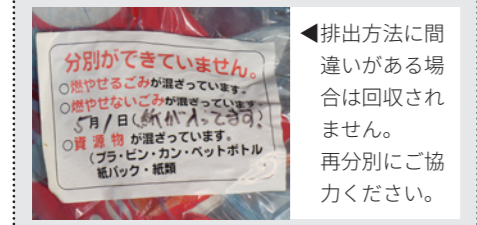
新型コロナウイルス感染症が1年を通して猛威を振るい、イベントの中止が相次いだ2020年。全国的にイベントの中止、外出の自粛を余儀なくされる異例の年を、私たちは経験しました。

11月、新型コロナウイルス感染症の1日あたりの感染者が2000人を超えるという報道がされました。未だ終息のめどが立たず、その勢いは増すばかりです。この困難を乗り越えるために私たちに一体何ができるのか。一人ひとりが、その行動を考えていかなければなりません。



ルールとマナーを守りましょう

- ①ごみは、きちんと分別しましょう
- ②決められた専用袋で出しましょう
- ③決められた日に出しましょう
- ④決められた場所に出しましょう
- ⑤決められた時間に出しましょう
- ⑥二重袋にしないでください
- ⑦再分別をお願いします
- ⑧ゴミ回収ステーションは行政区で管理しています



◀排出方法に間違いがある場合は回収されません。再分別にご協力ください。